

令和 2 年 6 月 2 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02403

研究課題名(和文) 脱植民地過程における文学のナショナリズムとインターナショナリズム

研究課題名(英文) Reconsidering Inter/Nationalism of Japanese Literature in the Process of Decolonization

研究代表者

平田 由美 (HIRATA, YUMI)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：60153326

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、領域横断的な移動研究(mobility studies)の知見を通して近現代の日本文学を再考することを目的に、植民地支配や占領・戦争、革命や社会体制の変化を越えて持続した文学活動に照準を合わせ、様々な地域の作品を調査収集し、掲載誌などのメディア情報を社会史研究と重ね合わせて分析し、作家個人のみならず、発行者や編集者、出版社や文学結社などの調査を加えて、地域間の文化的接触や人的交流の諸相を多角的に明らかにし、地域横断的な情報の共有を通して、国境や言語を越える《移動文学》研究の共通基盤の構築を図った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、日本の近代文学がアジア各地や欧米における文化運動との間に結んでいた多角的で双方向的な関係を明らかにした点にある。なかでもアジアでは日本帝国支配下の抵抗的文化運動にとどまらず、独立・解放後の民主化闘争などの運動が日本の作家や文化人との連帯として継続していたように、二項対立的ではない相互関係の複数性は重要な論点である。分断された国際状況の下で噴出するナショナリズムが世界を覆おうとしている現在、境界を越えて移動した作家たちの活動を再検証する社会的意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to reconsider modern and contemporary Japanese literature through the knowledge of transdisciplinary studies on mobility: (1) Research and collect literary works from different regions, focusing on the activities that have continued beyond Japanese colonial rule, occupation and war, revolutions, and changes in social systems. Information on the magazines in which the works were published was analyzed by superimposing it with social history research. (2) In addition to individual authors, the editors, publishers, and literary societies were surveyed to reveal various aspects of cultural contacts and human exchanges between regions. (3) Aiming to establish a platform for "literature in motion" research across borders and languages by sharing the materials and the results of the analysis across regions among the researchers, was established.

研究分野：日本文学

キーワード：移動文学 ポストコロニアリズム 翻訳

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景をなすのは、東アジアを越境しながら書き続けた(必ずしも「日本人」と名指すことのできない作家たちを含む)さまざまな人びとの文学を《移動文学》として考察することを目的に行われた科研費プロジェクトである。その過程で、芸術的営為に代表される人間活動が生物学的な時間を越えた歴史的連続性を持ち、同時に、空間的な越境性を模索し言語を越えようとする試みとして展開されてきたことを跡付ける必要性を痛感し、複数の場所で行われている研究をリンクさせることへの期待や励ましを得たことが出発点である。

第一次世界大戦とロシア革命によって大きく変化していく「短い20世紀」(ホブズボーム)における日本の帝国的拡張と崩壊から、それに後続する脱植民地化と民主化を求める世界的な闘争へと展開する時代の文学的営みを、先行プロジェクトのネットワークを駆使した領域横断的な移動研究として行うこと、そのために各地域の個々の実証的な文学研究を結び合わせるプラットフォームを構築することの必要性が強く意識されている。

2. 研究の目的

日本が植民地支配を強化し戦争へと突き進む時代は、世界史的には第一次世界大戦による荒廃からの復興と国際平和の理念が生まれた時期でもあった。「世界文学」の一翼たらしとする普遍主義的な理想と帝国主義的な文化イデオロギーとの関係は、単純な二律背反的枠組みではおさえられない。その複雑に絡み合った状況を動態として把握するために、地域研究としての個々の文学研究を脱中心化し連結することが不可欠である。

本研究では、「明治・大正・昭和」、「戦前と戦後」といった従来の日本限定的な時代区分ではなく、比較的長い時間軸と、歴史的な時間差はあっても理念や目的を共有して展開される複数の地域にまたがる文学運動を同一平面におく空間軸を設定し、地域研究としての文学研究を結合することを目的とする。具体的には、当該時期の日本における文学活動をヨーロッパから中央アジア、ロシア極東、中国東北部から朝鮮半島へと広がる空間として眺め、冷戦文化や第三世界との連帯までを射程に入れた時間を設定し、その時空間を移動して、《場》の意味そのものを変革していく文学主体の動きを精査し、日本文学研究の脱中心化することを目指した。

3. 研究の方法

中国、朝鮮、日本を中心にした諸地域の文学活動の歴史的、実地的調査研究であるため、さまざまな地域研究者の協力を得て、(1)国際ペンクラブ(PEN International)をめぐる政治環境と各国センターの成立、本部と各センターおよびセンター相互の関係と文学的連帯の思想(1930~50年代にかけての中国・朝鮮を中心に)、(2)エスペラント文学運動と反植民地主(独立)運動をめぐる状況と文学・演劇活動(1920~30年代にかけてのクラルテ運動などフランス日本朝鮮を中心に)、アジア・アフリカ作家会議と各地の反戦平和運動の連携・連帯(1950~70年代の日本朝鮮インドネシアなどの東南アジアを中心に)という3つのトピックに焦点化し、それぞれの活動や思想形成の拠点となった機関誌などの媒体を中心に資料の調査と分析を行った。

収集した資料と分析考察の結果をクラウド上で共有して、地域間の接触や相互関係の諸相を探った。各年度ごとに取りまとめのための研究会を行うこととし、最終年度には国際シンポジウムを開催して広く成果を共有することとした(実際には、感染症流行による渡航制限や自粛要請の発出前に他機関との共催シンポジウムにおいて成果の一部が発表されたものの、最終年

度の研究会およびシンポジウムは断念せざるを得なかった。

4. 研究成果

本研究の学術的意義は、日本を含むアジア諸地域における文学の相互行為的な関係やそれらと欧米文学との関係が、情報の発信先と受信元やオリジナルとコピーといった、非対称的で一方的な関係、すなわち影響・需要関係としてでなく、複雑密接に絡み合った、多元的で双方向のネットワーク的な関係であること一端を明らかにしたことが挙げられよう。たとえば、帝政末期のロシアにおけるアレクサンドル 2 世暗殺未遂事件が当時の情報伝達速度としては驚異的な早さで明治の日本に伝えられ、自由民権思想下の反体制運動として一連の「ロシア虚無党」小説を生み出し、清末中国で翻訳されることは、漢字文化圏のみならず広くアジアという空間がヨーロッパ近代に接続していることを明瞭に示しており、それらのテキストが日露戦争、大正デモクラシー、プロレタリア文学運動といった社会変動の中でたびたび蘇生する事実もまた、革命と民主化をめぐる世界的な潮流とその中の文化運動として解明されるべきものであることを語る。日本敗戦の後もアジア各地で継続された作家活動やその後の長期にわたる共闘的で連帯的な文学運動はそれぞれのナショナルな枠組みへの回収圧力とせめぎあいつつ、抵抗運動やカウンターカルチャーとして展開されていたことも看過することはできない。

人間の文化や芸術がもつ民主化の力として内発的に胚胎された可能性として民主化への力としてそれぞれの内発的な可能性としてを示すものであったことは明白で、その分析視角は、アジアの近代化において先陣を切ったとされる日本の文学の相互交通的で多面的な性格に光を当て、20 世紀の文学的営為を動態的なネットワークとしてとらえることを可能にする。本課題では、いくつかのプロジェクト研究を共にした人びとに加えて、日本研究を初めとして中国、朝鮮、台湾、インドネシア、ロシア、フランスなどさまざまな地域の優秀な若手研究者からの協力を得た。ここでの実践がそれらの方々によって、より大きな実を結ぶ種子となること、そして誰の眼にも露わになった 21 世紀の深いさまざまな社会的、経済的、人種的な分断を乗り越える道筋につながることを心から願っている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Hirata, Yumi	4. 巻 45-3
2. 論文標題 Recounting War, Experience and Memory: The Representation of Space in Zainichi Literature During the Korean War	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Universitas: Monthly Journal of Philosophy and Culture	6. 最初と最後の頁 7-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 平田由美	4. 巻 N/A
2. 論文標題 在日朝鮮人女性文学におけるセクシュアリティの表出とその変化：宗秋月・李良枝・鷺沢萌	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 在日朝鮮人がノを語る	6. 最初と最後の頁 38-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 平田由美	4. 巻 33
2. 論文標題 マイナー文学の政治と言語：後藤明生における《他者》とのめぐり合い	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本学報（韓国日本学会）	6. 最初と最後の頁 111-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 HIRATA, Yumi	4. 巻 52
2. 論文標題 Transitional identities and heteroglossia in Zainichi Korean Literature	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 待兼山論叢	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Brett de Bary	4. 巻 4
2. 論文標題 Tawada Yoko and Translation as Method: Deconstruction and Question of "Post-Race"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館生存学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 平田由美
2. 発表標題 移動の経験を < 現在化 > する
3. 学会等名 歴史中的移動 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平田由美
2. 発表標題 Comment for the panel: Inter-Asian migration from WWII to the 21st century
3. 学会等名 2017 AAS-in-Asia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平田由美
2. 発表標題 在日朝鮮人女性文学におけるセクシュアリティの表出と其の変化: 宗秋月・李良枝・鷺沢萌
3. 学会等名 東国大学文化学院叙事文化研究所・東岳語文学会国際学術大会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平田由美
2. 発表標題 近代日本の女性表象
3. 学会等名 Japanese studies in Indonesia, Rethinking Research and Pedagogy (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平田由美
2. 発表標題 「マイナー文学」の政治と言語：脱植民地過程における《他者》という隘路あるいは通路
3. 学会等名 韓国日本学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平田由美
2. 発表標題 Southeast Asia in Japanese imagiNation: A case of the Philippines
3. 学会等名 Japanese Studies Association in Southeast Asia International Conference 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平田由美
2. 発表標題 Recalling Refugees: Narrative of Mobility in Yoshida Tomoko
3. 学会等名 "Crossroads of cultures": Sakhalin Island from the perspective of history and literature (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	西川 祐子 (Nishikawa Yuko) (50183538)	京都文教大学・客員研究員 (34320)	
研究協力者	ド・バリー ブレット (de Bary Brett)	コーネル大学・東アジア学部・教授	
研究協力者	伊豫谷 登士翁 (Iyotani Toshio) (70126267)	一橋大学・大学院社会学研究科・名誉教授 (12613)	
研究協力者	孫 歌 (SUN Ge)	中国社会科学院・文学研究所・研究員	
研究協力者	美馬 達哉 (Mima Tatsuya) (20324618)	立命館大学・生存学研究所・教授 (34315)	